



プロジェクト名称

笑顔のまち なこそ復興プロジェクト

プロジェクト活動概要

福島県いわき市勿来地区は東日本大震災の津波によって被害を受けました。私たちはボランティア活動を通し、この地区の現状を目の当たりにし、支援の必要性を実感しました。そのため勿来地区で自分たちが復興支援に携わり、地元の人々はもちろん津波により勿来地区に移転して来た人々も笑顔にする取組を行っていきたいと考えています。勿来地区は、地元の人々に加え、他の地域から移転してきている人が多いという特徴を持った地域でもあり、高齢化が進んでいるという現状もあります。地元の人と移転してきた人、若年者と高齢者、それぞれの願いを大切にしながら、人と人が繋がっていくことで、真の復興に繋がると考えます。私たちも様々な人々と繋がりながら、勿来が未来像として描く“まちとまち、人と人がつながり、笑顔があふれるまち なこそ”の復興を実現していきたいと考えています。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2015年1月1日～3月31日

【だるま市】

だるま市とは、福島原子力発電所のある福島県双葉町に江戸時代から伝わる伝統的なイベントです。しかし、現在双葉町の方々は原発事故により避難生活を余儀なくされています。このイベントはいわき市の仮設住宅の敷地で開催されており、「双葉町の住民がふれ合い、伝統行事を継承し、ふるさとへの想いを諦めずに持ち続けてほしい」という想いが込められています。

今年のだるま市は、2015年1月10日（土）、1月11日（日）の二日間で行われました。だるま市では、双葉町で作られただるまの販売のほかに、焼きそばや焼き鳥などといった食べ物の販売、お笑い芸人やアーティストの方によるステージライブ、地元の方々によるカラオケ大会などが行われました。双葉町の方々といわき市に住んでいるの方々には、住民間で文化の差があるのではないかと参加する前は思っていました。しかし、そのような方々が交流しているところを見て、自分が参加前に抱いていたイメージが変わりました。



また、私たちは地元の NPO の方々や筑波大学の学生と一緒にカレーうどんやコーヒー、おしるこを屋台にて販売しました。当初は、カレーうどんを二日間で 100 食を販売する予定だったのですが、1 日目で好評ですぐに完売してしまったので、2 日目は販売する量を増やして販売しました。自分がイベントのボランティアとして参加することにより NPO の方々の力になれたと感じました。仮設住宅に避難されている方々など被災している方々が数多く来場されており、ステージで行われている催し物を見たり、屋台で販売されている食べ物を食べたりすることで多くの人たちが笑顔になっていました。そういった様子から多くの人たちが震災に負けずに前を向いて生活していることを実感できました。

これからもこのようなイベントに参加していき、双葉町の伝統的な行事を少しでも勿来の人々などに継承していくことのできる力になればと思います。



当日の様子



【なこそその希望 2015】

なこそその希望 2015 は、2015 年 3 月 7 日（土）、3 月 8 日（日）の 2 日間、岩間海岸で行われました。1 日目は、イルミネーションの点灯とキャンドルナイト、花火の打ち上げが行われました。イルミネーションは設置の準備が大変で、点灯したときに上手く形が浮かんでくるか不安もありましたが、点灯してみると上手く形になっていたのほっとしました。イベントの際には、来場していただいた方々が 1 つずつキャンドルを置いていきました。この一つ一つが震災に対する祈りであると思うと、様々なことを考えさせられ、この地域についてもっと長く深く携わっていきたくと思いました。

2 日目は、震災により犠牲となられた方々の鎮魂祭と岩間・小浜・錦須賀に住まわれている住民の方々の交流会が行われました。鎮魂祭では、雨が降っている中、地元住民の方々だけでなく、いわき市長も参列され、多くの方々が犠牲となられた方々に祈りを捧げていました。また、仏教だけでなく神道を信仰されている方もおられるため、神式と仏式の両方で追善供養が行われました。その後に行われた住民交流会では、岩間地区の方々を中心に作られた豚汁や焼うどんなどが振る舞われました。また、ステージでは、人形浄瑠璃や三味線・和太鼓の演奏などが行われました。交流会に参加されていた人には、終始笑顔が見られ、とても楽しそうにされていました。

鎮魂祭に参加して、震災により犠牲になられた方に対して祈りを捧げることにより震災により被災された方々がいること改めて実感し、復興を早くしていく必要があると感じました。

また、交流会に参加して、普段は話すことができない地元住民の方々と話すことにより、学校にいないだけではわからない“生の声”を聞くことができ、とても勉強になりました。



当日の様子



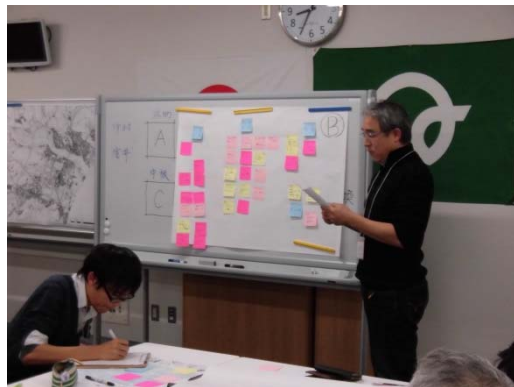
当日の様子

【勿来と双葉の共生を考えるワークショップ】

勿来地区には原発の問題により居住が困難とされている地域である双葉町から多くの方が移転されてきました。そのため、現在勿来地区には元々勿来地区に住んでいた勿来住民と双葉町から移転してきた双葉町の住民が共に生活するという状態となっています。

勿来に元々住んでいた勿来住民、移転してきた双葉住民、両者にはそれぞれこれまで培われてきた文化があり、二つの地区の住民が一つの街で生活することにより双葉町の文化が無くなってしまったり、両者に壁が生じてしまったりすることも考えられます。そういった問題が生じず、勿来の住民と双葉の住民が共に勿来で生活していけるように話し合いが行われています。

話し合いには住民組織、地元 NPO、双葉町職員、いわき市職員等の方々が参加されており、“どんな人が話し合いに参加するべきか”や“どのようなことを議論するべきか”といったテーマについて話し合いが行われています。



当日の様子



当日の様子

今後の活動計画、目標、意気込みなど

【予定】

① いわき市錦須賀地区の復興計画の提案

これまでの活動で防災集団移転跡地となっている福島県いわき市錦須賀地区の活用方法の検討を行っているのでその計画を地元の方々、NPOに提案します。

② 岩間地区防災緑地の3Dイメージ作成

引き続き3Dイメージを見せた際に頂いたアドバイス等を参考にし、3Dイメージの修正等を行い詳細な3Dイメージの作成をします。

③ 勿来と双葉の共生について考えるワークショップへの参加

勿来地区には帰宅困難区域から移転されてきている双葉住民の方が多く住まわれており、勿来の方と双葉の方が勿来地区でどのように共生していくかをワークショップで話し合いを行っています。自分たちもこの話し合いに参加し、“なこそ”が抱えている問題について自分たちも関わっていきます。このような話し合いなどソフト的な復興についてもさらに活動を行っていこうと考えています。

【目標】

私たちのプロジェクトでは、被災地についての現状を自分の目で見たり、そこで人や自然と触れ合ったりする中で、感じたこと・考えたこと・行動したことを発信し、被災地の今の状況と可能な支援について知ってもらい、一人でも多くの人と繋がりながら、復興の輪を広げていきたいと考えています。今年度、学生プロジェクトとしてこのプロジェクトを立ち上げた段階では、自分たちの持つ勿来地区の情報は多くありませんでした。しかし、活動を続けていき、地元NPOの方々や現地の住民の方々にお話を聞いたり、現地を見学したりといった活動により、復興に関わって自分たちにできる活動が、より具体的になってきました。具体的になった自分たちにできる復興活動を形にしていきたいと思います。また、今年度はプロジェクトメンバーの学科、学年に偏りが見られました。なので、4月からは様々な学科や学年から参加メンバーを募っていききたいと考えています。